

平成29年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	川崎区第2グループ(大師・藤崎・殿町)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H28		H29		H28		H29		
	1 大師こども文化センター ①年間延べ利用者数	42,724人	37,101人	②年間延べ利用団体数	245団体	239団体			
2 大師小学校わくわくプラザ ①登録者数	178人	240人	②年間延べ利用者数	10,447人	14,773人				
3 四谷小学校わくわくプラザ ①登録者数	157人	155人	②年間延べ利用者数	12,184人	12,111人				
1 藤崎こども文化センター ①年間延べ利用者数	22,853人	23,575人	②年間延べ利用団体数	232団体	224団体				
2 藤崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	275人	274人	②年間延べ利用者数	19,002人	19,662人				
3 川中島小学校わくわくプラザ ①登録者数	262人	302人	②年間延べ利用者数	15,010人	18,118人				
1 殿町こども文化センター ①年間延べ利用者数	35,727人	33,069人	②年間延べ利用団体数	345団体	316団体				
2 殿町小学校わくわくプラザ ①登録者数	219人	214人	②年間延べ利用者数	13,091人	11,964人				
3 東門前小学校わくわくプラザ ①登録者数	539人	577人	②年間延べ利用者数	33,539人	37,112人				
収支実績	単位:円								
1 収入 指定管理料	152,299,185								
2 支出 人件費	126,240,261								
管理費	10,559,048								
事務経費	8,379,767								
その他経費	9,050,913								
合計	154,229,989								
3 差引	-1,930,804								
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進及び事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適切に実施した。 ・殿町こども文化センターでは、地域で子どもの遊び場が限られていることから、1泊2日で「こ文に泊ろう！」を実施した。子どもたちの親睦を深め、地域の銭湯に行き、地域の人たちと交流するとともに、段ボールで寝床を作り、災害時の避難所生活の体験が出来た。 ・各小学校わくわくプラザでは、子どもたちの要望により、新たに「わくわくランチ」を実施した。3年生以上が1年生が食べやすいように食材を小さく切る等の工夫をしながらい料理体験し、相手を思いやる気持ちを学ぶ機会となった。 ・大師こども文化センターでは、「ちいキッズ役立ち隊」の取組として、ハロウィンの時期に合わせて、「地域ふれあいの旅～たくさんの人とつながろう～」を実施し、幼児も含め150名が参加し、川崎大師門前の広場でダンスを披露するとともに、仮装をして町を歩くことで、地域の人たちと交流することが出来た。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについては、事業実施後のアンケート、意見箱の設置、子ども運営会議等を通して、意見の集約を行っている。藤崎こども文化センターでは、意見箱に寄せられた要望に応え、新たに小学生の卓球大会を実施する等、利用者ニーズを反映した取組がなされている。 ・特別な配慮を有する利用者への対応については、学校や保護者と情報交換を密に取り、利用児童個々の発達過程・障がいの状況を把握し、適切に対応した。 ・学校及び行政機関との連携については、大師こども文化センターにおいて、今年度新たに、大師公園の管理運営会社と連携し、「大師公園お掃除大作戦」を実施し、地域との交流を図る目的で小学生を中心に公園内の掃除を行った。 ・施設・事業の広報については、大師こども文化センターにおいて、小学生向けだけでなく、中高生向けや乳幼児親子向けたよりを毎月発行し、町内会・各学校・幼稚園・保育園・行政等関係機関など様々な場所で配布するよう工夫するとともに、ホームページやおたより等の多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。 ・運営協議会及び保護者懇談会については、定期的に各施設において実施し、意見・要望を受けて、事業の実施をするとともに、円滑な施設の運営を行っている。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置がされている。 職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。特に、殿町こども文化センター及び管轄わくわくプラザでは、「手遊び・集団ゲーム研修」を実施し、短時間で子どもたちが集中出来る手遊び等を学ぶことで、「わくどキタイム」の充実を図った。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	4	4
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。東門前小学校わくわくプラザでは、網戸を新たに設置する等、児童の環境改善に取り組んでいる。 利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年2回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。また、夏休み前に食中毒予防のため、区役所で行われた食品衛生研修に参加し、研修内容を職員やスタッフに共有している等、職員の意識づけが図られている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。特に津波到達地域にあることから、避難経路について子どもたちと確認し、職員のみならず、利用者に対しても意識付けがなされている。また、殿町小学校校外生活指導委員会に参加し、町内会等と情報共有を図るとともに、パトロールにも参加する等、地域団体との連携を図っている。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業、新規事業にも取り組んでいる。

ちいキッズ役立ち隊やボランティアクラブでの活動のほか、近隣小・中学校や公園管理会社と連携して、パトロールや清掃活動を行う等、地域に根差した事業を行っている。

また、各種研修に参加し、職員の資質向上に努め、良質なサービスを提供している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。